

中国株式市場の急落と今後の見通しについて

2015年7月28日

《中国株価の急落について》

7月27日に中国本土の代表的な株価指数である上海総合指数は8.48%下落し、8年ぶりの下げ幅を記録しました。7月上旬の急落から先週にかけては中国政府が主導した相次いだ株価対策もあり、株式市場はやや落ち着きを取り戻した状況にありましたが、昨日の急落は投資家がまだ市場に対して不安心理を抱いていることを浮き彫りにしました。

昨日の急落の背景としては、①同日に発表された6月の工業企業利益が前年同月比▲0.3%（5月は+0.6%）とマイナスに転じ景気減速懸念が深まっていること、②7月24日に発表された7月の中国製造業業況指数（PMI）速報値が48.2と低水準にとどまったこと、③一部メディアで国家による株価買い支え資金が撤退を始めたとの報道が流れたこと、④7月上旬の急落後からの直近までの株価上昇ペースが速過ぎたこともあり、利益確定の売りが膨らんだ、といった点があげられます。

7月上旬の急落後に中国当局が実施した株価対策はある程度は効果を示したとも言えますが、その一方で昨日の急落は人為的に株価の下落を抑えようとしても限界があることを端的に示したとも言えます。

《今後の見通しについて》

中国本土の株式市場は基本的に国内投資家の市場であり、中国株急落が直ちに国際金融システムの危機につながる可能性は低いと考えられます。しかし、投資家のセンチメントとしてはリスクを回避する志向が当面は強くなるものと思われまます。

短期間で急激な乱高下を経験した中国株式市場が、再び落ち着きを取り戻すには相応の時間が必要になってくるでしょう。昨日の急落によって一連の株価対策では市場をコントロールできないことが明らかになったため、中国当局としても抜本的な対策を打たざるを得なくなりました。投資家が中国株式市場に対し不安心理を抱くのは实体经济との乖離が著しいためと考えられます。中国政府は今年目標である7%前後の成長に向けて財政・金融政策を総動員してくると見込まれており、最近発表された不冴えな景気指標に対して着実な対策を打ち、实体经济に対する安心感が生まれてくれば、投資家のリスク指向も回復し株式市場も次第に落ち着きを取り戻すとみています。当社におきましても引き続き動向を注視してまいります。

《上海総合指数の推移》



《ご参考：香港株式市場の推移》



期間：2014年1月初～2015年7月27日 出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成
各指数に関する知的財産権その他一切の権利は指数の発表元に帰属します。

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。